

育てにくい子にはわけがある SEASON 2
～しでかす子にもわけがある～

第八回 **かみつく、ひっかくは、
道徳律では治せない？**
～脳機能からの改善を～

サロン限定WEBセミナー

11/2(火)
21:00-22:20
@ZOOM

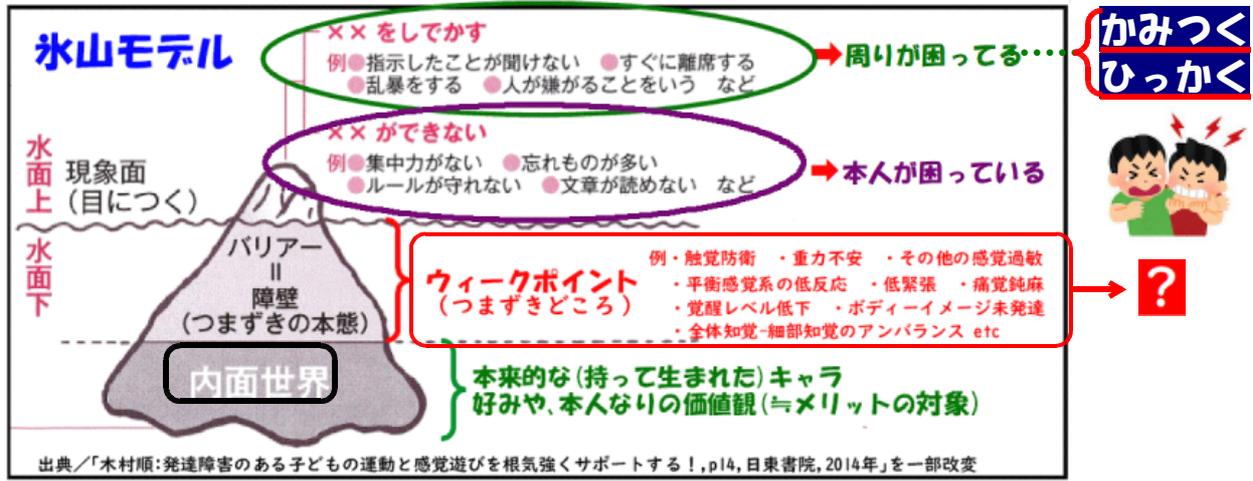
サロン内でアーカイブ動画も配信中！

事前申し込みは必要なし！



講師 木村 順

第1章：かみつく・ひっかくという他害行動の分類



◆ **タイプO**：そもそも、相手に対して「**悪意(意図性)**」があって取っている行動
 ……言うまでもなく、**論外**

◆ **タイプA**：“家族病理”をはじめとする「**荒んだ対人関係**」の中で育った場合
 (1)例えば、「DVの家庭」で育ってきたであろう場合
 (2)不満や憤りの表現として・当たり前前に暴力を振るうモデルを見ての誤学習
 ……この場合は、**道徳律(≠罰する, ≠飴と鞭)も功を奏するはずだが、**
 今回の主旨からは外れるので**除外**

◆ **タイプB**：知的障害が重く、発達水準としても「**初期発達**」段階の場合
 (1)「感覚と運動の高次化理論(通称：宇佐川理論)」で言うところの「**感覚運動水準**」
 例) 「目」に映った(視覚)モノには手を伸ばすが、口に入れてかじる程度
 「音」が鳴ったらチラッと振り向く(聴覚)が、じっと聞き入ることはない
 (2)「**かみつく・ひっかく**」といった「**他害**」と同時に「**自傷**」や「**自己刺激行動**」も多い
 ……この場合は、**認知発達の学習課題**が中心となる
 本セミナーの主旨に半分は合致し、残り半分は外れる……

◆ **タイプC**：知的水準よりも「**言語表出の障害**」があり、**言語での“応戦”が苦手**
 (1)少なくとも友達との「**言語でのコミュニケーション**」は成り立っているが、対立関係(=ケンカ)になった際に、言葉でやり返せなくなったときの行動様式
 (2)「**主導権獲得欲求**」が高い「**本来キャラ**」の場合に「**かみつく・ひっかく**」が出やすい
 ……この場合も、**言語発達と表現力の学習課題**が中心となる
 本セミナーの主旨に半分は合致し、残り半分は外れる……

◆ **タイプD**：知的な遅れはあるが、**別の身体的・生理的要因**が絡んでくる場合

(1)「感覚と運動の高次化理論(通称：宇佐川理論)」では**”パターン知覚水準”以上**

例) 〔繰り返し経験すると、”目”で見た(視覚)だけで、形や色の弁別ができる
何度も経験していくと、”音(聴覚)”に合わせて簡単な動作の調整ができる

(2)自分の思い通りにならないとき、わめいたり暴れたり主ではあるが、その際に**”覚醒水準”**が下がってきている場合に**”かみつく・ひっかく”**が誘発されやすい

……本セミナーの**中心課題**として理解できる

◆ **タイプE**：知的な遅れというよりも、**「触覚防衛反応」**が起爆剤になってる場合

(1)本セミナーの**中心課題**として理解できる

(2)しかし問題は、現実の”あの子”と”この子”の**”かみつく・ひっかく”**という行動を見(観・視・診)ていくと、

- ①**”触覚防衛反応”**という生理的な症状を起因にしながらも、その現れ方は、
- ②**”覚醒水準”**という生理的基盤のゆらぎを受けながら
- ③**”認知発達水準”**というフィルターで行動修正され
- ④**”言語表現能力”**というバイアスでも行動修正され
- ⑤**”本来キャラ”**という極めつけ役で大きく書き換わっている

■ **第2章**： **「触覚防衛反応」**が作り出す**かみつく・ひっかく**の理解から

I. **「原始系」と「識別系」**という脳機能

2>触覚(表在感覚) = 【原始系】と【識別系】の2つの系統があり、識別系が原始系の機能を抑制することで、触覚のバランスを保っている。

1【原始系】の触覚=進化の過程で残った、原始動物の時代から使っていた本能的触覚機能

①対象(餌)に向かう
あ、えさだ!
たまご
触手も伸ばす

②対象(外敵)と闘う
ええ〜い、こうしてやる!
威嚇の液を出す

③対象(外敵)から逃げる
わ〜、幸運!
この3パターンを反射的に切り替える役割。人間も生得的に持っている。

2【識別系】の触覚=高等な哺乳類(猿)以降に飛躍的に進化させた知的触覚機能

・意図的に意識を向け、触ったものの大きさ、素材、形を識別する。

あ、これが切符だね
ポケットの中味が手探りでわかる。

・体の輪郭やサイズのイメージを発達させる等の役割をもつ。

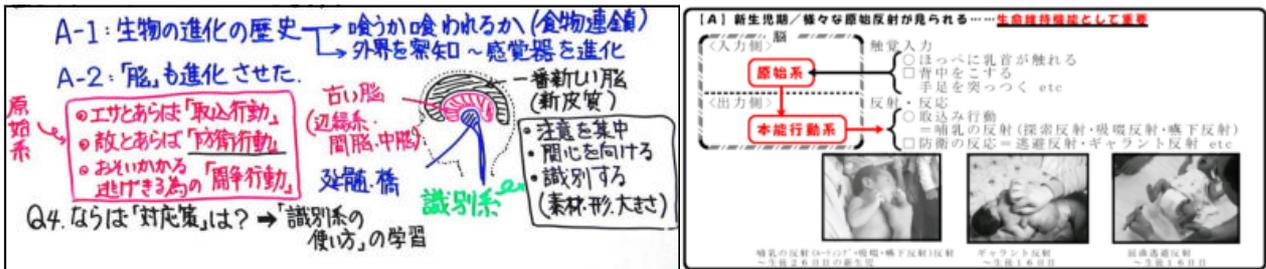
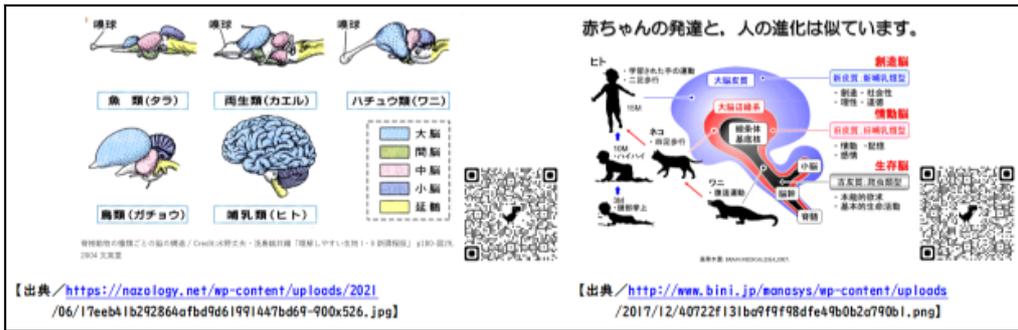
これだけ手も伸ばさくも届くんだね…
学習と経験で他機能とも連動し発達する(生後3ヵ月ころから発達し始める)

【出典：臨床育児・保育研究会レポート(2000年7月&9月)より URL <http://www.ikuji-hoiku.com/>】

1. 太古の昔から、外界を察知し、行動につなげていくための**《感覚入力→運動出力系》**に、**「原始系」**と呼ばれる、皮膚感覚(触覚)を入力源とする脳神経システムあり

- 1) 自分の体に触れたモノが、餌とあらば「向かっていく」ためのシステム → **取込行動**
- 2) 自分の体に触れたモノが、天敵とあらば「身構え、逃げ切る」ためのシステム → **防衛行動**
- 3) 天敵に襲われ逃げる、餌に喰らいついて仕留める際の「闘う」ためのシステム → **闘争行動**

2. 脳は、長い進化の過程で、太古の昔から使ってきた脳の上に新しく形作った脳を、後付け継ぎ足していった (=脳の階層構造)



3. また、進化する中で後から作ってきた脳ほど、古い時代の脳機能にブレーキ(抑制)をかける機能を担う

4. かみつく・ひっかくの大元は、「高等に進化した脳(大脳新皮質)の機能=「識別系」が「原始系」の機能を抑制しきれない=暴走状態に陥っているがために生じる症状

「触覚防衛反応」を作り出している脳機能と同じ

II. ”この子”の状態像を読み取っていく上で難しいのは、

- ① **原始系** に端を発する行動が、
- ② **覚醒水準** や ③ **認知発達水準**、④ **言語表現能力**、⑤ **本来キャラ** といういくつもの条件を加味させながらぐる抜けて具現化(症状となって現れるか)を読み取ること

III. かみつく・ひっかくという他害行動を改善するには……？

➡ 原理・原則は、「触覚防衛反応」へのアプローチと同等

例えば「**タッチング**」



【タッチング：触ってもらっている自分の体に関心(=注意)を向けていく持続時間で勝負!!!】
 出典：ジャパンタイムDVD



ポイント→ 触られている部位に子どもが関心を持っていることを確かめる
 広い面積で均等な圧力をかけ、少しずつ移動していく
 表情・呼吸し・しくさで関心を向けているか確かめる
 触らせている時間よりも、関心を持っている時間を重視する
 出典：小学館ブログ(発達障害の子を理解して上手に育てる本・幼児期編) http://www.shogakukan.co.jp/pr/90th/310808.html

■参考までに～巷(ネット)で語られている”かみつつき”

★毎日新聞生活報道部

お役立ち情報

情報ものしり帖

かみつくには理由がある

乳幼児の小さな歯でも、がぶりとかまれると、とても痛い。よその子をかんでしまうと、保護者は冷や汗が出ます。子どもの発達の特長は「かむのにはその子なりの理由がある」そうです。

●一過性だったか

「お友達にかみつくことが増えています。もう少し早くお返えに來られませんか」。東京府内に住む会社員の母親(37)は3月、2歳2か月の長男を預ける保育所でそう言われ、ショックを受けました。1歳半ごろからかみつつきがあらましたが、2歳前には落ち着きました。年度末に忙しく、お返えを1時間延長し始めてからぶり返したと話されました。



帰宅後は4歳上の長女に我慢してもらい、できるだけ甘えさせていました。それでも負想を付けているのかと思うと自己嫌悪に陥りました。睡眠時間を削って仕事し、できるだけ距離を避けるように祈りました。かみつつきは4月になると収まりました。母親は「進級したら『お兄さんになった』という気持ちが強まったようで、落ち着いて落ち着けるようになりました」と話します。

振り返れば一過性のものでしたが「かみつつきが続いている時は被害に遭った子に申し訳なく」と母親。宿が残るほどの時は保育所側が相手の名前を覚えてくれたので、顔を合わせた時に直接謝ったり、金えない時は手紙を書いたりして3～4人に謝罪しました。「長女は逆によくかみつかれていた方なので、長男のことは『お互い様』と思ってくれる保護者が多くて救われました」と振り返りました。

●伝えきれない思い

乳幼児のかみつつきはなぜ起きるのでしょうか。お茶の水女子大の須口順子教授(幼児教育学)と大学教職内のこども園で園長を務める保育士歴38年の私市(きさいち)和子さんに尋ねました。かみつつきをいかに防ぐかは、昔から現場の悩みだったそうです。

かむ子が出てくるのは10カ月ごろから。保育所では1歳児クラスで最も多いです。自分でやりたいことや他の子への関心が芽生えてくるもの、まだ言葉でうまく自分の思いを伝えられないためです。歯肉や内出血の痕が残るので大人は衝撃を受けるけれど、子どもにとっては大得意して訴えたり、たいたいたりするのと同じ感情の出方の一つだそうです。須口教授は「何でも口で確認する赤ちゃんは、口が世界と関わる突出した部分だということも関係しているかもしれません」と推測します。

●気持ちの理解を

かむのには理由があります。「おもちゃを齧られた」「あの子の使っているおもちゃを今使いたい」は分かりやすい理由です。一方、目の前を通り過ぎただけでかみつくこともあるのです。大妻女子大の阿部和子教授(発達心理学)は「その子の気持ちになっ」と勘測します。欲しい物に向かう途中に他の子が来て邪魔だったのがらみません。体調不良でイライラしている、寝込みを引きたいといったことも考えられます。特に大人が忙しい朝夕や寝み合っている時などは「かむ時節等」だそうです。

かみつつきが起こったら、加害、被害双方の気持ちを受け止めることが重要です。おもちゃを返ってならば、かまれた子には手当てしながら「痛かったね」と共感し、「このおもちゃが欲しかったのかもね」とかんだ子の気持ちを代弁してあげるのです。かんだ子には「このおもちゃで遊びたかったんだね」と受け止め、「お返運が痛いって泣いてるよ。真しくて言ってみるのいいよ」と身振りも交えて促します。「自分の要求を達そうとすることは悪徳の表れだから大切にあげたいものです。悪徳を方向付けて育てるのが大人の仕事です」と阿部教授は論じます。

◇成長の一過程、寄り添って改善

かみつつきが起きにくい環境も考えてみましょう。「かみつつきは関わり全体の一つの表れ。かむことだけを課題になって止めようとしても意味はありません」と阿部教授は注意を促します。

仕事などで帰りの遅い日が続く、子どもが妙にすり寄ってきたり、いつもと違つたふうになたりして困つた経験はありませんか。そんな時は満足するまで抱っこしたり、保育所帰りに子どもの思うまま寄り添ったりすると落ち着くことがあります。「ずっとべったりでなくていい。数十分でも集中して満足するまで一緒に楽しむだけで、子どもは親とのつながりを確認できます」と阿部教授。

須口教授は、物理的にも精神的にもその子の居場所が確保されていることが大切だと指摘します。まず、人が多くざわついた環境は改善します。見守る大人は「この子は良い子だ」というまなざしを忘れてはいけません。「この子はかむ子」と常に異感を持って鋭い目で見ていると、子どもは精神的に居場所を制限される感覚になり、余計にかむ頻度は高まることも考えられます。かみつつきは通常、言葉で感情を表現できるようになると収まるので、過剰な心配は避けましょう。

私市さんの場合、保護者にかみつつきを報告するのは同僚も続いた時です。その状況と謝罪がどんな対応をしているのかについて、「朝日は休みなのでゆっくりできるというですね」などと、家庭でできることをできるだけ提案することもあつたそうです。

かつては加害、被害双方に互いの名前を伝えることはなかったが、最近では親同士の関係も考慮して伝えることも増えているという。私市さんは「かみつつきが続くと親は苦しく、保育士も『止められなかった』と苦しむけれど、必ず収まる時がある。子どもを真ん中において、そんな時期なんだ、成長の一つなんだ、と思える関係を作れたらいいですね」と話す。

毎日新聞生活報道部
Copyright © 2003 - 2017 Kyoei Fire Marine Insurance Co., Ltd. All rights reserved.
掲載されている情報は2021年9月時点での情報であり、最新の情報と異なる場合があります。



<https://www.kyoeikasai.co.jp/kpa/agent/monosiri2017-18.htm>

<https://www.kyoeikasai.co.jp/kpa/agent/monosiri2017-18.htm>